

経済分野 10 講案

生活実感から経済の仕組みを捉えて
社会の変化を公共的に考える

福島大学・佐藤英司

夏の経済教室（2026 年 8 月）

経済分野の難しさと授業構成の提案

経済分野の難しさ

- 概念が抽象的になりやすい
- どこまで説明するかが難しい
- 教科書用語への接続が難しい

生徒たちの感じ方

- 自分の暮らしとの関係が見えにくい
- 市場や制度が分断的
- 暗記用語として受け取られやすい

1. 身近な問い → 仕組み → 振り返り
2. 4つの基盤の重なりから経済を見る

設計図としての4つの基盤

重なりと相互依存を捉える枠組みとしての4基盤

1. **市場**: つくる・売る・働く
2. **インフラ**: 運ぶ・つなぐ・届ける
3. **生活**: 生きる・学ぶ・備える
4. **政策・制度**: 調整する・守る・支える

これらが**相互に支え合う**ことで、暮らしと経済は成り立っている

- 4つの基盤は先生向けの設計図
→ 生徒に分類させるわけではない
- 各単元をつなぐための補助線

全 10 講を通じて伝えること

個人・企業・政府の選択が，他者の暮らしや社会全体にどのような影響を及ぼすかを **自分の言葉で説明できる** ようにしたい

- 私たちの暮らしは，多くの人々の選択とつながりによって成り立っている
- **市場**は豊かさや利便性を生み出すが，それを支える**インフラ**，**生活の条件**，**政策・制度**があって初めて十分に機能する

まず仕組みを理解し，そのうえで誰にどのような影響が及ぶかを考える

既存单元をつなぐ骨格

各講に共通する授業の型

1. 問い：身近な変化や疑問から
2. 仕組み：四つの基盤と人々の行動のつながりを理解する
3. 振り返り：誰の選択が誰にどんな影響を及ぼすかを考える

社会変化を経済の問いに変える

技術，人口，国際環境，災害，生活様式，政策・制度などの変化を，**経済の仕組み**を用いて捉える

1. 社会で何が変わっているか
2. 誰の選択や制約が変わるか
3. 背景に，どのような経済の仕組みがあるか
4. 新しい機会や負担は，誰に強く及ぶか
5. 政策・制度によって，何を調整できるか

社会問題について直ちに賛否を問うのではなく，
まず，**なぜその変化が起こり，どのように影響が
広がるか**を説明する

全 10 講の流れ (1)

- 第 1 講（導入）
当たり前暮らしが，多くの人々の選択とつながりによって成り立つことを捉える
- 第 2-6 講（市場の仕組みが中心）
生産・交換・信頼・競争・消費者・労働を通じて，人々や企業がどのように選択しているかを考える
 - インフラ・生活・政策・制度が前提

全 10 講の流れ (2)

- 第 7-9 講（市場だけで十分に扱いにくい課題へ拡張）
公益サービス・公共財・社会保障を通じて、
つながりや制度が果たす役割を明示的に捉える
 - 市場の否定ではない
- 第 10 講（4 基盤全体の統合）
個人や企業の行動の積み重ねが、景気、雇用、物価などに及ぼす影響を考える

第1講: 暮らしはつながっている

私たちの暮らしは、なぜ当たり前のように成り立っているのか

また、何が変わるとその暮らしは揺らぐのか

- 希少性・トレードオフ・つながり
- 足りなくなったとき、何を優先し、誰にどう配るか
→ 分業やルールが必要

私たちの暮らしは、限られた資源をめぐる選択と国内外の多くの人とのつながりで成り立っている

第2講: 生産者間のつながり

商品やサービスは、どのように生まれ、私たちの手元に届くのか

- 綿花・化学繊維・デザイン・縫製・輸送・販売網・決済までをたどる
- 分業・交換・グローバルサプライチェーン
- 発展論点: 利便性の背後で、労働や環境負荷はどこに生じるか
→ 現状の利点と問題点もあぶりだす

身近な商品は、世界中の人々が役割を分担し交換することで私たちの手元に届いている

第3講: 取引を支える信頼

知らない人や海外の相手とも，なぜ取引できるか

- 海外の人と取引しようとする時、通貨や送料、決済が課題になることに気づかせる
- 貨幣・信用（信頼）・決済システム・評判
- 信頼を個人ではなく、制度や仕組みが支えていることを理解させる

お金・決済・評価・補償の仕組みがあるから、
知らない人や海外の相手とも取引できる

第4講: 市場競争とルール

企業の競争は、どのように暮らしを良くし、どのようなときに選択肢を狭めるのか

- 競争によって企業は消費者に選ばれようとして行動し、その企業の行動が市場を変える
- 競争・独占・イノベーション
- 競争の維持・促進のためには、どのような条件やルールが必要か考える

競争は価格やサービスをよくする力を持つが、競争を維持するルールがないと選択肢を狭めうる

第5講: 市場における消費者保護

消費者は本当に納得して商品やサービスを選んでいるのか

- 価格差別の例, 情報の重要性, 表示の事例
- 価格差別・情報の非対称性・消費者保護
- 特にデジタル経済では, 売る側と買う側で持っている情報や判断のしやすさに差がある
→ 比べて納得して選べる環境を整えることが必要

わかりにくい料金や契約条件では, 消費者は必ずしも納得して選べない

第6講: 労働市場とキャリア形成

働く・学ぶ・暮らし方の選択は、何によって左右されるのか

- 労働市場・賃金・人的資本・労働者保護
- 賃金や働き方には、技能だけでなく、企業の需要、雇用形態、交渉力、地域、政策、制度も関わることを理解させる

給料や働き方は、 本人の努力や技能だけでなく、
企業の需要・交渉力・政策・制度によっても左右される

第7講: 公益サービスのあり方

採算だけでは維持しにくい生活サービスを、
誰がどのように支えるか

- サービスを持続的に届けることの問題
- インフラ，規模の経済，効率と公平
- 市場だけでは難しいが，政府がやればよいというわけでもないことにも気づかせる

生活に必要なサービスは，市場だけに任せるのではなく，負担と公平を調整する仕組みが必要

第8講: 公共財・外部性と協力

一人ひとりに任せるだけでは解けない課題を，
社会全体ではどのように解決できるのか

- **公共財・外部性・フリーライダー・課税制度**
 - 公共財：防災，地域の安全，学校の共有空間
 - 外部性：騒音，感染症，環境，ごみ
- みんなに関係するのに誰か一人では担いにくいものがあること，それをどのように社会全体で進めたらよいかを理解させる

個人や企業にとって合理的な選択でも，社会全体では望ましくない結果になることがある

第9講: 社会保障とリスク

病気・けが・失業・老後・介護のリスクを、
一人で抱え込まないためにはどうするか

- リスク，保険，社会保障，再分配
- 医療・年金・失業保険・介護保険に加え，
セーフティネットが万全でないことにも触れたい

人生におけるリスクを個人だけで引き受けることは難しく，リスクを社会で分け合う仕組みが必要

第 10 講：社会全体のバランスを見る

個人にとって合理的な行動でも、社会全体では問題になることがあるのはなぜか

- 合成の誤謬，景気，物価，財政・金融政策

個人や企業の選択が積み重なると景気・雇用・物価など社会全体の状態が変化する

現場でのアレンジの方向性

変えないもの

- 経済の基本概念
- 問い → 仕組み → 振り返りという授業の型
- 選択、利益と負担、政策・制度、社会全体への影響を見る視点

変えるもの

- 入口となる身近な問い
- 具体的事例や統計資料
- 振り返りの深さ（公共的問い）
- 地域・生徒の関心との接続

10 講すべてを作り替える必要はない。まず各講の入口・振り返りを変える，あるいは2講をつなげて扱うことから

振り返りの設問を一段ずつ深く（例. 第7講）

授業時間，生徒の理解，関心に応じて影響を考えさせたり，
選択肢を比較させる

1. 仕組みの説明

利用者が少ないと，交通・診療所・保育などの生活サービスは，なぜ利用料だけでは維持しにくいのか

2. 影響を受ける立場を一つ考える

利用料を引き上げたり，サービスを減らしたりすると，誰が困り，誰の負担が軽くなるのか

3. 選択肢を比較して考える

利用料を上げる，税で支える，補助する，サービスを見直す場合，それぞれ誰が負担し，何を維持できるか

一つの社会変化を複数の講から捉える例

デジタル化

第3講：決済・評価・取引を支える信頼

第4講：新規参入，競争，市場集中

第5講：情報や表示，消費者の選択

第6講：技術の変化と働き方・技能

環境・エネルギーをめぐる変化

第2講：生産とサプライチェーンの負荷

第7講：エネルギーやインフラの持続可能性

第8講：外部性，協力，規制・課税

第10講：個々の選択と社会全体への影響

社会変化を入口にした授業づくりの手順

1. 社会の変化や身近な疑問を一つ選ぶ
技術，人口，働き方，環境，地域など
2. 関係する経済の仕組みを選ぶ
1つまたは2つの講と結び付ける
3. 変化を示す資料を一つ用意する
統計，記事，図，資料，身近なサービスなど
4. 経済の仕組みを用いて説明する
誰の選択や制約が変わり，影響がどう広がるかをたどる
5. 異なる立場への影響を一つ考える
対応策の利点と負担を比較する

まとめ

経済を「用語」ではなく暮らしを支える仕組みとして見る

1. 生活実感から入ると理解しやすい
2. 問いと振り返りでメッセージを明確に
3. 市場の働きと，インフラ，生活，政策・制度が補い合う場面をつなげて考える

暮らしから問い，仕組みを理解し，その仕組みが自分や他者の暮らしにどのような影響を及ぼすかを考えさせたい